

実践で学ぶロジカルプレゼンテーション

科目責任者：奥 田 竜 也（基盤教育部門）

I. 前 文

第1学年1学期に開講される人文自然選択Ⅰ「フィクションとファクトから学ぶ移植医療Ⅰ」では、文学作品を通じた授業と、実際の医療の現場から臨床医および移植経験者の立場からの授業を行い、移植医療について学ぶと共に、医師として求められる倫理観や死生観の涵養を目的としている。本科目では更なる学びとして、学んだ内容をいかにまとめるか？いかにして他人に伝えるか？について学ぶと共に、最終目標として獨協医学会での発表を目指す。

II. 受入可能人数

人文自然選択Ⅰ「フィクションとファクトから学ぶ移植医療Ⅰ」を受講していること。

III. 担当教員

奥 田 竜 也（基盤教育部門）

磯 幸 博（第二外科）

廣 田 美 玲（語学人文教育部門）

IV. 学習内容

「フィクションとファクトから学ぶ移植医療Ⅰ」で学んだ内容をディスカッションにより振り返るとともに、何を考え、何を感じたのかについてまとめる。更に、その内容を他者に的確かつ論理的に伝えるためにはどうしたら良いのか？について教員のアドバイスも交えて考え、学会発表用のポスター形式でまとめあげる。最終的に獨協医学会での発表を行い、実践を通してプレゼンテーション技術を身につける。開講は2学期とし、詳細な日程については受講学生と調整の上、決定します。

V. 学修の到達目標

自身の考えを他者に正確に伝えることができる。

他者と協力して考えを論理的にまとめることができる。

学会発表におけるマナーやプレゼンテーション技術を身につける。

VI. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み状況、学修成果として作成する発表用ポスター、獨協医学会での発表（質疑に対する受け答えも含む）によって評価する。

VII. 使用する教材・資料など

「フィクションとファクトから学ぶ移植医療Ⅰ」で使用した教材や資料をそのまま利用する。必要に応じて追加の資料配付も行う。

VIII. 質問への対応方法

随時対応しますが、事前にメール等でアポイントメントを取ってもらう方がより確実です。

E-mail：okuda@dokkyomed.ac.jp

IX. 求められる事前学習、事後学習

授業の開始にあたり、「フィクションとファクトから学ぶ移植医療Ⅰ」で提出したレポートの内容を振り返り、自身の意見や考えを整理しておく（目安時間・30分）。

X. コアカリ記号・番号

A-1-2) -②, A-2-2), A-4-1), B-2-1), E-9-1)

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

課題などに対しては全体向けに講評などを行い、必要に応じて個別にフィードバックを行います。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|--------------------------|--|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。 | |
| | 種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。 | |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。 | |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | ◎ |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | ○ |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | |
| | 書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。 | ○ |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。 | ○ |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。 | |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。 | |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。 | |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ○ |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ○ |